

編集後記

近畿大学医学会雑誌50巻1・2号をお届けします。今号では「研修医のための教育講座」を中心に、複数の貴重な論文を掲載することができました。

伊藤彰彦先生による巻頭言「実験病理学の懐」では、30年以上にわたる研究生活の中で培われた独創的な実験手法の紹介と、病理学という学問の持つ包容力について深い洞察が述べられています。病理学の自由さと広がり、改めて感銘を受けました。

藤田和利先生らによる「最新の転移性前立腺癌治療戦略」では、近年急速に発展している前立腺癌治療、特に免疫チェックポイント阻害薬を含む新規治療法について詳細な解説がなされています。論文中で触れられているように、前立腺癌は日本人男性の罹患率が最も高いがんとなっており、その治療戦略の最新知見は臨床現場で大いに役立つものと思われます。

前田法一先生による「アディポネクチン」は、脂肪細胞から分泌される生理活性物質「アディポサイトカイン」の一つであるアディポネクチンについて、その発見からメタボリックシンドロームとの関連、さらには臓器保護作用までを網羅した総説です。T-カドヘリンを介したエクソソーム産生促進という新たな作用機序の解明は、今後の治療応用に大きな可能性を秘めています。

林秀敏先生の「免疫チェックポイント阻害薬使用患者がERを受診したら」は、腫瘍内科専門医の立場から免疫関連有害事象(irAE)への対応について解説した貴重な総説です。免疫チェックポイント阻害薬の使用拡大に伴い、一般診療医がirAEに遭遇する機会は確実に増えています。本稿が多くの臨床医の参考となり、患者さんの救命に繋がることを願います。

今号に掲載された各論文は、いずれも独創的な研究成果や臨床的に重要な知見を含んでおり、読者の皆様の日々の診療や研究活動に役立つものと確信しています。特に臓器連関の視点から見ると、前田先生のアディポネクチン研究と林先生の免疫チェックポイント阻害薬研究は、一見異なる領域でありながら、全身の恒常性維持という共通の目標を持っていることに気付かされます。

近畿大学医学会雑誌は、今後も医学・医療の進歩に貢献すべく、質の高い論文を掲載してまいります。引き続き、皆様からの投稿をお待ちしております。最後に、本号の編集にあたりご尽力いただいた査読者の先生方、そして編集室の皆様にご心より感謝申し上げます。

2025年4月

近畿大学医学雑誌 編集委員長
大塚 篤 司

近畿大学医学会役員

会 長	西 尾 和 人	幹 事(編集)	大 塚 篤 司
副 会 長	東 田 有 智	監 事	重 吉 康 史
幹 事(庶務)	松 村 謙 臣	評 議 員	医学部主任教授
幹 事(会計)	永 井 義 隆		

編 集 委 員 会

大 塚 篤 司 (編集長)

伊藤 彰彦 杉本 圭相 上 裕 俊法 中川 和彦
(教育講座)

西尾 和人
(シリーズ最新のがん)

「原稿作成の手引き」は各巻の第1号にあります。
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

近畿大学医学雑誌

第50巻 第1・2号

令和7年6月13日 印刷
令和7年6月20日 発行

発 行 人 西 尾 和 人

編 集 人 大 塚 篤 司

発 行 所 近 畿 大 学 医 学 会

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2
近畿大学医学部内

印 刷 AP リ ュ ー プ ン 合同会社

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。